

退教互会報

一般財団法人 岩手県退職教職員互助会

〒020-0022 盛岡市大通一丁目1-16岩手教育会館4階 ☎019(623)3300(代) ホームページ: <http://iwatetai.webcrow.jp/>
発行・編集責任者 高橋道明

目次

退教互創立60年を迎えて……………	2
後期高齢者医療制度に関するお知らせ……………	4
公益文化事業／陳情署名行動……………	5
おくやみ欄……………	6
満100歳を迎えられた方々／……………	7
加入健康保険変更時等コピーの送付を／……………	8
あとがき……………	8

表紙の写真

〔花巻市石鳥谷町丸川溪流の「たろし滝」〕
とげし森から葛丸川に注ぐ沢水が山中腹で凍りついてできる高さ約13mの巨大な大氷柱の太さを測定し、その年の稲作の作柄を占う習わしがあります。「たろし」とはつららを意味し、垂氷（たるひ）が訛ったもので、できる氷柱が滝に似ているので「たろし滝」の呼び名がついたと言われています。
2022年の測定結果は5・45m（豊作）となったそうです。
因みに過去最高は昭和53年の8mでその年は大豊作だったようです。ぜひ、予想どおりの豊作を期待したいものです。



〈画像提供 一般社団法人花巻観光協会〉



退教互創立60年を迎えて

一般財団法人 岩手県退職教職員互助会

理事長 金田一 文 紀

岩手県退職教職員互助会（「退教互」）が創立され、60年という年月が経過しました。退教互も「還暦」を迎えたこととなります。

退教互は、国民健康保険制度が日本国内全ての市町村に普及し、国民皆保険制度がようやく実現した1961年10月に発足しました。当時の国保は5割給付で、しかも高額療養費制度や高齢者医療制度のない時代でしたから、大病を患うと、医療費の支払いのために退職金やわずかばかりの恩給を使い果たしてしまうだけでなく、家族にも多大な迷惑をかけるからと、病院に行くことをためらったり行かなかったりしたということが多くあったと聞いています。そんな退職者や高齢者が置かれている現状を目の当たりにする中で、教職員が安心して教職に専念できるようにと、退職後の医療費給付を主な事業とする退教互が創られました。

本来、「国民の医療と健康は、国の責任で守るべきであり、国へ働きかけるべきもの」という反対意見も多かった中で、将来、国の社会保障制度の充実によって「患者負担のない医療国『日本』」が実現し、その役割を終えることを願いながら、岩手の教職員が自らの手で「健康保険給付＋退教互給付＝患者負担『0』」を実現しました。

日本はもとより世界にもまったく例のない中で創設する制度ですし、当然、長期にわたる制度存続が不可欠な事業ですから、退教互創立後の運営状況に応じた見直しを行うことを前提にしながら、制度の発足にこぎつけたことは言うまでもありません。事実、これまでも掛金納入期間の見直しや給付事業の見直し、受診者負担の新設や改定等を実施しながら、高騰を続ける医療費や度重なる健康保険制度の改定（改悪）、資産運用環境の悪化、退職会員の増加に対応してきました。

制度の見直しにあたっては、その都度検討委員会を設置し、組織検討を繰り返し、現職・退職会員の相互理解のもとに制度の変更を実施してきました。

退教互の創立によって、どれだけの退職会員とそこご家族が助けられ恩恵を受けたか計り知れません。今では、他県の教職員やそれ以外の職域にも退職互助の制度が広がっています。その先駆的役割を果たしてきたのが岩手の退教互であったと自負しています。

他県の多くの互助会が退職互助事業を行う中で、岩手退教互の療養費の給付方法は他に類例を見ないものとなっています。退教互は、岩手県内の医療機関のご理解とご協力のもと「窓口会計なし」で医療が受けられる方式での給付を行っています。会員の方々の医療費は、受診者に変わって退教互が病院・薬局等へ支払うため、持ち合わせを気にすることなく医療が受けられると大変喜ばれています。また、退教互には県内16地区と東京、仙台のあわせて18地区の地区組織があり、研修会等の会員交流や会員相互の見守り活動を行っています。退職会員の皆さまにとっては、退教互は退職後の生活に欠かすことのできない存在となっています。

以下、退教互の歴史をふり返ってみます。（参考「岩教組50年史」）

【創立】

日本国内はもちろん世界にも前例のない、退職後の年金生活を補完する互助制度として、個人負担となる部分の医療費を全額給付とする制度を発足させようとする「退職教職員互助会（仮称）」についての構想が、1年以上の資料収集、内部討議の期間を経て1960（昭和35）年12月第4回岩教組中央委員会に提案された。経験も前例もない制度の議論は白熱を極めたが、岩教組には組織的な勢いがあり、失敗例も成功例も知らないところがあってそれが強みになり、「まずやってみよう」ということになったと聞いています。

【契約病院】

全県立病院及び同病院付属診療所、盛岡赤十字病院、盛岡市立病院、花巻労災病院、1966（昭和41）年には県下全病院、医院、翌年には県歯科医師会、県薬剤師会と契約。さらに、1968（昭和43）年には県柔道整復師会と施術契約。全医療機関との契約が揃い、「窓口会計なし」の制度が整った。

【退教互運営】

○現職会員掛金納入者	○退職会員給付対象者
・1962年 7,600人	・1962年 218人
・1991年 8,430人	・1991年 11,617人
・2022年 5,404人	・2022年 13,712人
○療養給付金	○運用利率
・1962年 144万円	・1962年 6.58%
・1991年 5億1044万円	・1991年 6.31%
・2019年 9億2000万円	・2019年 1.45%

「岩教組50年史」にはこう綴られています。

「岩教組の最高傑作は退教互です。岩教組の団結と運動の成果の結実です。この代替するもののない制度を全ての教職員の理解と協力と互助精神の結集として、高教組と共に維持発展させなければなりません。」

この退教互の「互助」の精神をこれからも大事にし、療養費給付の事業はもちろんのこと、県内16地区と仙台、東京の18地区会での活動（見守り活動）を守りぬいていきましょう。

【盛岡地区 中村 哲子さん所有資料から】

「会議計画表」（昭和42年）

ハガキによる「退教互会報」（昭和61年）

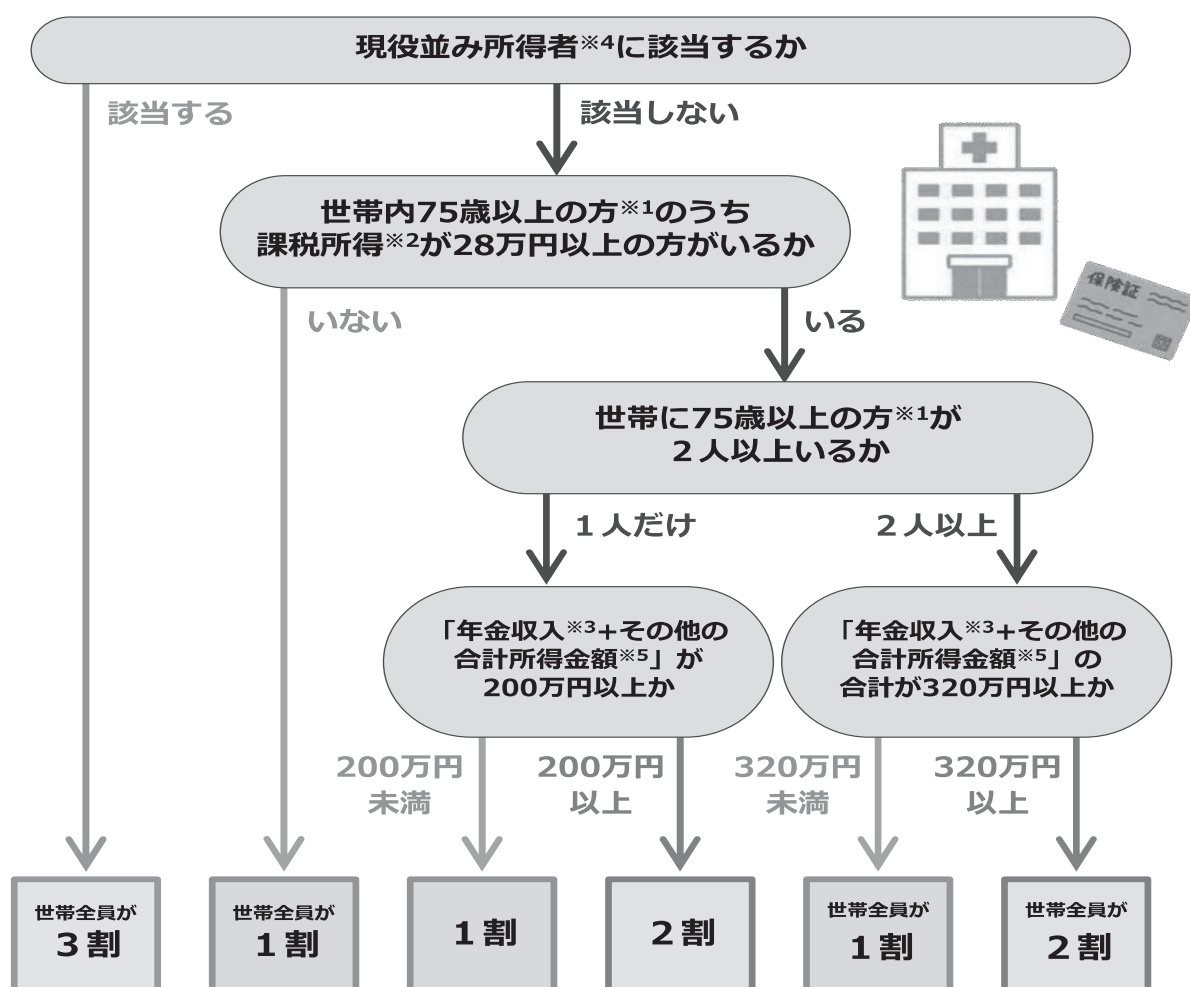
後期高齢者医療制度に関するお知らせ

一定以上の所得のある方（75歳以上の方等）の医療費の窓口負担割合が変わります

●2022年(令和4年)10月1日から、一定以上の所得のある方(75歳以上の方等)は、現役並み所得者(窓口負担割合3割)を除き、医療費の窓口負担割合が2割になります。

窓口負担割合2割の対象となるかどうかは 主に以下の流れで判定します

- 世帯の窓口負担割合が2割の対象となるかどうかは、75歳以上の方^{※1}の課税所得^{※2}や年金収入^{※3}をもとに、世帯単位で判定します。
(お住まいの地域によって異なりますが、2021年中の所得をもとに、一般的には2022年8月頃から判定が可能になり、9月頃に被保険者証が送られます)



※1 後期高齢者医療の被保険者とは
75歳以上の方(65～74歳で一定の障害の状態にあると広域連合から認定を受けた方を含む)

※2 「課税所得」とは
住民税納税通知書の「課税標準」の額(前年の収入から、給与所得控除や公的年金等控除等、所得控除(基礎控除や社会保険料控除等)等を差し引いた後の金額)です。

※3 「年金収入」には遺族年金や障害年金は含みません。

※4 課税所得145万円以上で、医療費の窓口負担割合が3割の方。

※5 「その他の合計所得金額」とは
事業収入や給与収入等から、必要経費や給与所得控除等を差し引いた後の金額のことです。

窓口負担割合が2割となる方には 負担を抑える配慮措置があります

- 2022年10月1日の施行後3年間(2025年9月30日まで)は、2割負担となる方について、1か月の外来医療の窓口負担割合の引き上げに伴う負担増加額を3,000円までに抑えます(入院の医療費は対象外)。

※同一の医療機関での受診については、上限額以上窓口で支払わなくてよい取扱い。
そうでない場合では、1か月の負担増を3,000円までに抑えるための差額を払い戻し。

【配慮措置が適用される場合の計算方法】

例：1か月の医療費全体額が50,000円の場合

窓口負担割合1割のとき ①	5,000円
窓口負担割合2割のとき ②	10,000円
負担増 ③ (②-①)	5,000円
窓口負担増の上限 ④	3,000円
払い戻し等 (③-④)	2,000円

配慮措置

1か月 5,000円の負担増を
3,000円までに抑えます。

医療費窓口負担割合の見直しに関するお問い合わせは

お住まいの都道府県の「後期高齢者医療広域連合」または市区町村の「後期高齢者担当窓口」までお問い合わせください。

今回の制度改正の見直しの背景等に関するご質問等は、厚生労働省コールセンター(0120-002-719)にお問い合わせください。

2割負担となる方で高額療養費の口座が登録されていない方には 2022年秋頃に 各都道府県の広域連合や市区町村から申請書が郵送されます

申請書がお手元に届いたら、申請書に記載の内容に沿って、口座の登録をしてください。

ご注意ください！

- 厚生労働省や地方自治体が、電話や訪問で口座情報登録をお願いすることや、キャッシュカード、通帳等をお預かりすることは **絶対にありません**。
- ATMの操作をお願いすることは **絶対にありません**。
- 不審な電話があったときは、最寄りの警察署や警察相談専用電話(#9110)、または消費生活センター(188)にお問い合わせください。



書類は必ず
郵送の
お届けです



ホームページが4月1日から

<http://iwatetai.starfree.jp>

に変更になります

▶ 2021年度 公益文化事業

公益文化事業は、岩手教育会館、岩手県教職員互助会、岩手県高校教育会館との共催により、11月に「コーラスネットワークいわて コンサート（6団体出演）・岩手教育芸術祭美術展（143点出品）」12月には「小松成美氏（ノンフィクション作家）講演会」を開催し、沢山の方々にご来場いただきました。



第50回岩手教育芸術祭美術展入賞者（敬称略）

	絵画	書道	写真
芸術祭賞	谷藤真由美（花巻）	横田 朗子（北上翔南高）	松坂 翔太（奥州）
優秀賞	高橋 邦法（紫波） 富田喜平司（二戸）	藤岡 宏章（県立図書館）	藤村 雄治（盛岡）
奨励賞	伊藤真理子（盛岡） 佐藤 英子（奥州） 橋場 恒弘（矢巾） 八木 毅（盛岡）	木内 淳子（石鳥谷小） 吉田 充（長興寺小） 芳賀 尚代（盛岡） 八木橋ひろみ（盛岡）	蜂谷 福夫（奥州） 千葉 洋一（滝沢） 黒田 隆治（盛岡） 浅川 義廣（奥州）
第50回記念賞	菊池 和弘（矢巾） 田中館隆雄（滝沢） 佐々木 斉（盛岡）	北田 聖子（盛岡市立高） 八木橋哲男（盛岡） 三浦 真琴（盛岡第一高）	達下 才子（黒沢尻北高） 瀬川 誠孝（花巻） 鈴木絵津子（黒沢尻北高）

陳情署名・行動

今年度も、現職・退職会員の皆様に「全ての世代が将来にわたって信頼できる年金・医療・介護等の社会保障制度の確立等を求める陳情」の署名活動にお取り組みいただきました。その結果、集約された署名者数は15,406人（全国集計では410,766名）で、署名簿の回収数は2,328枚（回収率19.72%）となりました。


例年であれば署名簿を携え、衆・参議院会館を訪問し岩手県選出の国会議員へ陳情を行なっていますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、盛岡市内にある3ヵ所の議員事務所へ12月8日に専務理事の高橋と総務課長の藤原の2名で陳情を行なってきました。

陳情署名活動にお取り組みくださいました皆様、ご協力ありがとうございました。

■おくりやみ申し上げます<敬称略>

会報94号掲載以降の方々です。退教互から香奠を給付し、ご冥福をお祈り致しました。

【盛岡地区】			【稗貫地区】			【東磐井地区】		
村上 和彦	2019年12月18日	67歳	藤嶋 榮一郎	2021年 8月26日	89歳	須藤 昭見	2022年 1月19日	79歳
咲山 福榮	2021年 6月12日	90歳	伊藤 修悦	9月 6日	79歳	千葉 幹子	1月26日	103歳
吉田 信男	8月 2日	70歳	高橋 貞子	11月 3日	96歳	【気仙地区】		
田代 春子	8月17日	83歳	佐藤 夕工	11月 8日	92歳	渡部 昭文	2021年 8月14日	87歳
鼻節 重夫	8月23日	89歳	佐藤 澄仲	11月 9日	98歳	高橋セキ子	10月 3日	70歳
志田 毅	8月26日	98歳	宮川 フヂ	11月10日	94歳	福山 裕子	10月 6日	90歳
藤原 洋子	9月 2日	71歳	川村 優子	12月 1日	65歳	佐藤 昭子	10月11日	79歳
栃内 洋一	9月13日	87歳	小原 章吾	12月 4日	82歳	水沼トシミ	10月26日	93歳
佐々木 信一	9月17日	75歳	中村 カツ	12月 6日	97歳	柏 敦子	12月15日	97歳
種市 明生	9月18日	61歳	乙部 キ工	12月 9日	92歳	佐熊 洋一	12月16日	86歳
村井 良吉	9月22日	89歳	八重 櫻又徳	12月15日	91歳	土岐 民子	12月28日	91歳
菊地 恒ツ	9月22日	85歳	菅野 洋	2022年 1月 3日	85歳	及川 徹	2022年 1月10日	96歳
八巻 恒雄	9月27日	81歳	阿部 善郎	1月25日	88歳	鈴木 米子	1月16日	74歳
鏡 保夫	9月28日	84歳	瀬川 正憲	1月31日	74歳	【釜石地区】		
菅原 ナミ子	10月 4日	71歳	【和賀地区】			千葉 衛	2021年 9月10日	92歳
山口 孝子	10月 7日	91歳	高橋 茂	2021年 8月15日	96歳	松橋 松男	10月20日	91歳
米田 富英	10月12日	90歳	折居美代子	9月 2日	93歳	八幡 フク	12月 3日	97歳
菅村美和子	10月13日	71歳	藤巻 武郎	9月12日	77歳	照井 豊	2022年 1月 1日	84歳
田原 甲子	10月15日	93歳	黒井 恭平	9月15日	91歳	里館 幸雄	1月17日	90歳
上山 イト	10月20日	96歳	千葉 禎子	10月13日	96歳	【遠野地区】		
中屋 伸陽	(米内中学校)		桑原 昭子	10月24日	92歳	小松野 勇治	2021年 8月31日	90歳
	10月20日	58歳	千田 任男	10月30日	91歳	留場 聰	12月 4日	80歳
舞田 公子	11月 9日	85歳	菅原 敏子	12月24日	73歳	【宮古地区】		
越 瑛雄	11月13日	84歳	佐藤 恵子	12月29日	87歳	崎山 ハツ	2021年 9月26日	92歳
細田熊次郎	11月18日	91歳	及川 浩志	2022年 1月26日	89歳	佐々木良樹	11月 5日	90歳
佐々木 裕之	11月21日	69歳	【胆沢地区】			古久保 仔	11月30日	91歳
原田 みつ	11月30日	93歳	佐藤 吉司	2021年 8月31日	87歳	【九戸地区】		
岩持 幸子	12月 2日	85歳	菅原 哲壽	9月17日	89歳	磯崎 ツエ	2021年10月 4日	107歳
澤口 誠	12月 3日	60歳	岩淵 美津	9月25日	93歳	菅原 常雄	10月30日	90歳
越 昭夫	12月 4日	87歳	千葉ハツ子	9月30日	91歳	久慈 富夫	11月14日	95歳
大宮田 恒秋	12月 4日	87歳	及川 之雄	10月28日	74歳	吉岡 滋	11月22日	87歳
熊谷 七郎	12月 8日	93歳	菅原 功	11月 5日	89歳	一郷 武彦	12月 3日	61歳
桐野 和子	12月11日	91歳	小泉 實男	12月 8日	84歳	【二戸地区】		
山口 輝子	12月27日	100歳	遠藤 次子	12月17日	93歳	西村 久	2021年 8月22日	92歳
小原 静子	2022年 1月 4日	88歳	千田 貞子	12月17日	84歳	石川 喜三郎	8月29日	86歳
藤井 正宏	1月 5日	77歳	鈴木 克武	12月24日	89歳	中野 アヤ	9月14日	99歳
荻原 松子	1月 6日	97歳	佐藤 萬	12月29日	77歳	南谷 スエ	9月19日	94歳
佐藤 昭伍	1月10日	91歳	高橋 尚子	2022年 1月14日	68歳	佐藤 勝一	10月 3日	91歳
中野 邦雄	1月26日	88歳	高橋 陽子	1月26日	94歳	猪久保章一郎	11月11日	97歳
中村 孝造	1月30日	89歳	菊地 禮子	2月 6日	98歳	下田 和夫	12月14日	82歳
【岩手地区】			【江刺地区】			夏井 昌孝	2022年 1月 2日	88歳
釜澤 有人	2021年 9月11日	86歳	高橋ワカ子	2021年 8月28日	80歳	工藤 クニ	1月 3日	91歳
藤田 重治	9月24日	77歳	小澤 アイ子	9月30日	85歳	宮川 義隆	1月17日	77歳
伊五澤ノリ子	9月28日	90歳	【西磐井地区】			門口喜八郎	1月21日	91歳
飯坂 克成	(学校生協)		倉成モトコ	2021年 9月17日	90歳	【東京地区】		
	10月 1日	52歳	加藤 公一	10月24日	79歳	菅 公生	2021年 6月12日	95歳
早川 栄子	10月 7日	85歳	千葉 和夫	11月 5日	85歳	西山 長平	8月16日	92歳
柴田 靖三	10月28日	88歳	高橋 正明	12月24日	84歳	千田 節子	12月15日	98歳
武田 英雄	12月 3日	93歳	花籠 富喜	2022年 1月 3日	96歳	市川ヤス子	12月28日	90歳
細川 仁	2022年 1月 6日	74歳	遠藤 東海	1月24日	89歳	細越澤 朴子	2022年 2月13日	91歳
佐藤 昌三	1月19日	83歳	小野 寺 清	2月 2日	89歳	【仙台地区】		
【紫波地区】			【東磐井地区】			泡瀬 信一	2021年 8月22日	82歳
館澤 剛	2021年 9月 2日	71歳	三上 新	2021年 9月12日	60歳	及川 幸子	9月 8日	91歳
坂東 祥伸	9月12日	69歳	樋口 弘司	9月30日	80歳	鈴木 亮	10月30日	87歳
藤原 若狭	10月 6日	77歳	遠藤 元男	10月 8日	92歳	【青森県南部町】		
伊藤 直	10月20日	79歳	千葉 和郎	10月17日	90歳	中川原 美佳	2021年12月22日	56歳
根田千鶴子	10月26日	92歳	鈴木 有一	10月29日	89歳	【秋田県秋田市】		
吉田 廣志	10月26日	91歳	佐藤 浩佐	11月 6日	101歳	戸澤 昭	2021年 9月 6日	92歳
吉田 志ヨ	11月11日	85歳	伊藤 良治	11月15日	92歳	【秋田県八峰町】		
藤原 淳男	12月 1日	91歳	佐藤 勝重	12月20日	76歳	大坊 美代	2021年 9月29日	96歳
島田 洋二	2022年 1月 6日	80歳	小野寺 登	2022年 1月 4日	97歳	【愛知県名古屋市】		
細川 ミサオ	1月 8日	98歳	菊池 勉	1月 5日	87歳	石崎 房江	2021年12月 7日	90歳



満100歳!!
おめでとう
ございます。

第94号掲載以降、次の方々も100歳のお誕生日を迎えられましたので、ご紹介いたします。

<p>橋本 悦さん (和賀地区)</p> <p>大正10年9月27日生 昭和53年3月 江刺高校退職</p> <p>秋ごろまではご自宅からサービスに通いながらお過ごしでいらっしゃいました。</p>	<p>小林 正さん (西磐井地区)</p> <p>大正10年10月20日生 昭和57年3月 一関聾学校退職</p> <p>少々お耳が遠いものご自宅でお元気にお過ごしとのことでした。</p>
<p>佐藤 宗彦さん (稗貫地区)</p> <p>大正10年10月27日生 昭和57年3月 湯口中学校退職</p> <p>老人ホームに入所中ですが、コロナ禍でなかなかご家族とも面会が難しいようです。</p>	<p>山形 榮子さん (東磐井地区)</p> <p>大正11年2月9日生 昭和51年3月 新沼小学校退職</p> <p>92歳で股関節骨折後、歩行困難となり施設に入所中です。以前はひ孫さん達に折り紙やぬり絵等を教えていらっしゃったとか。現在はホームの皆さんと色塗りやゲームをしながら過ごされておられます。</p>
	<p>佐藤 トミさん (岩手地区)</p> <p>大正11年2月16日生 昭和55年3月 水堀小学校退職</p> <p>現在はご自宅でご家族とお元気にお過ごしとのことでした。</p>

ご加入の健康保険が変わったら**新しい保険証のコピー**を退教互へお送りください。

毎年4月は、退職、就職、任意継続期間の終了等でご加入の健康保険が変わる方の最も多い時期です。ご加入の健康保険が変わった方は、必ず退教互へ「新しい保険証のコピー」の送付をお願いします。

3割負担の皆様へのお願い

高額療養費の自己負担限度額を超える医療費の支払いが生じる場合は、自己負担限度額までの支払いで済む取り扱いがされています。(高額療養費の現物給付化)

自己負担限度額は、その方の年齢と所得によって異なり、69歳以下の方は「ア～オ」までの5段階、70歳以上の方は「Ⅰ～Ⅲ」までの3段階に区分されています。健康保険証にはその区分の標記されていない為、自己負担限度額までの支払いで済む取り扱いを受けるためには、ご加入の健康保険から別途「限度額適用認定証」(以下「認定証」)の交付を受け、病院・薬局等へ提示することが必要です。

住民税非課税世帯の皆様へのお願い

住民税の非課税世帯に該当する方には、自己負担限度額の軽減等の減額措置が講じられています。但し、その減額措置の適用を受けるためには、ご加入の健康保険から「限度額適用・標準負担額減額認定証」(以下「認定証」という)の交付を受け、病院・薬局等へ提示することが必要です。

※3割負担の方、非課税世帯に該当の方は、「認定証」の交付を受け、退教互にもそのコピーのご送付をお願いします。

あとがき

大事にしている朝顔があり毎年知人にあげています。アパート住まいの方が「葉は元気なんだけど花芽が出ない」。鉢植えにして窓辺に置いてあるので、短日性の朝顔にとっては「いつになったら日が短くなるのかな?」かと。覆いをしたらたくさん花が咲き最後の一輪は1月だったとのこと。「今年の秋は長かったなあ」かと。4年間お世話になりました。(み)